

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	神戸女学院大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	環境と健康のために行動する女性科学者養成		
主たる研究科・専攻名	人間科学研究科人間科学専攻環境科学分野		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 遠藤 知二		

[教育プログラムの概要]

本学の教育理念 本学は、建学の精神にもとづいて、地域社会や国際社会の福祉と進歩のために働くことのできる自立した女性を育成することを目標としている。本学の人間科学部とその大学院組織である人間科学研究科は、人間の精神、体、そしてそれらを取りまく社会や環境の健やかな状態を実現するために、心理学、行動科学、健康科学、環境科学など、人間科学のさまざまな専門分野からのアプローチを行っており、これらの分野における専門的な知識を有し、地域社会の中で自立的に問題を解決することのできる女性を育成することを使命としてきた。

社会的要請 社会的にみれば、わが国のような先進国では大量生産・大量消費・大量廃棄に基礎を置く生活スタイルの転換や、生物多様性の維持を地域社会のレベルで実現することが、大きな課題となっている（『わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画』、関係省庁連絡会議、2006）。しかし、実際には持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）の専門家はほとんど不在で、その取組みも社会的には浸透しているとは言いがたい状況にあり、このようなESDの専門家の養成は、社会的な急務といえる。また、現在の科学技術の進歩は、たとえば食品選択や健康管理などの日常生活の場面において、一般市民に正しい科学的知識、合理的な判断にもとづいた行動をとらせることをしばしば困難にしている。したがって、地域社会と科学の橋渡しを行うサイエンス・コミュニケーターが必要とされている。

学科構成との関連 本研究科は、環境汚染や環境保全、人と環境のかかわりの問題に取り組んできた環境科学専門分野、環境要因と健康の関係、食と健康の関係、心身の相互作用に取り組んできた健康科学専門分野を擁し、さらに人間関係のスキル、人間の認知バイアス、情報処理など、コミュニケーション能力の養成に欠かせない人間行動学専門分野をあわせもっており、「ESD専門家」と「食と健康を守るサイエンス・コミュニケーター」という、地域社会に貢献する実践的な女性研究者を育成するのにふさわしい組織構成を有している。また、本プログラムは、ESD専門家、サイエンス・コミュニケーターを目指す学部卒業生のほか、NPO等に所属して活動を行っている社会人や、社会経験を生かして地域貢献を志す女性をおもな対象として考えている。そのような目的意識をもった人材に門戸を広げるため、新たに博士前期課程の入試制度に社会人枠を導入する予定である。

申請プログラム 本プログラムは、既存の教育課程の充実化に加えて、次の支援プログラムを導入することで大学院教育をさらに強化し、上述の社会的要請により明確に応えようとするものである。

① **単位認定を前提とした長期インターンシップ制度による研修活動**：長期インターンシップ制度では、学生は自らの研究テーマにしたがって地域のNPO、公的機関、企業等の受け入れ先で1年間にわたって活動し、現実的な課題に直面することによって、実践的な応用能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。インターンシップの研修活動は、そのレポートによって専門科目演習の単位として認定することとし、その活動内容を成果とした修士論文の作成を指導する。

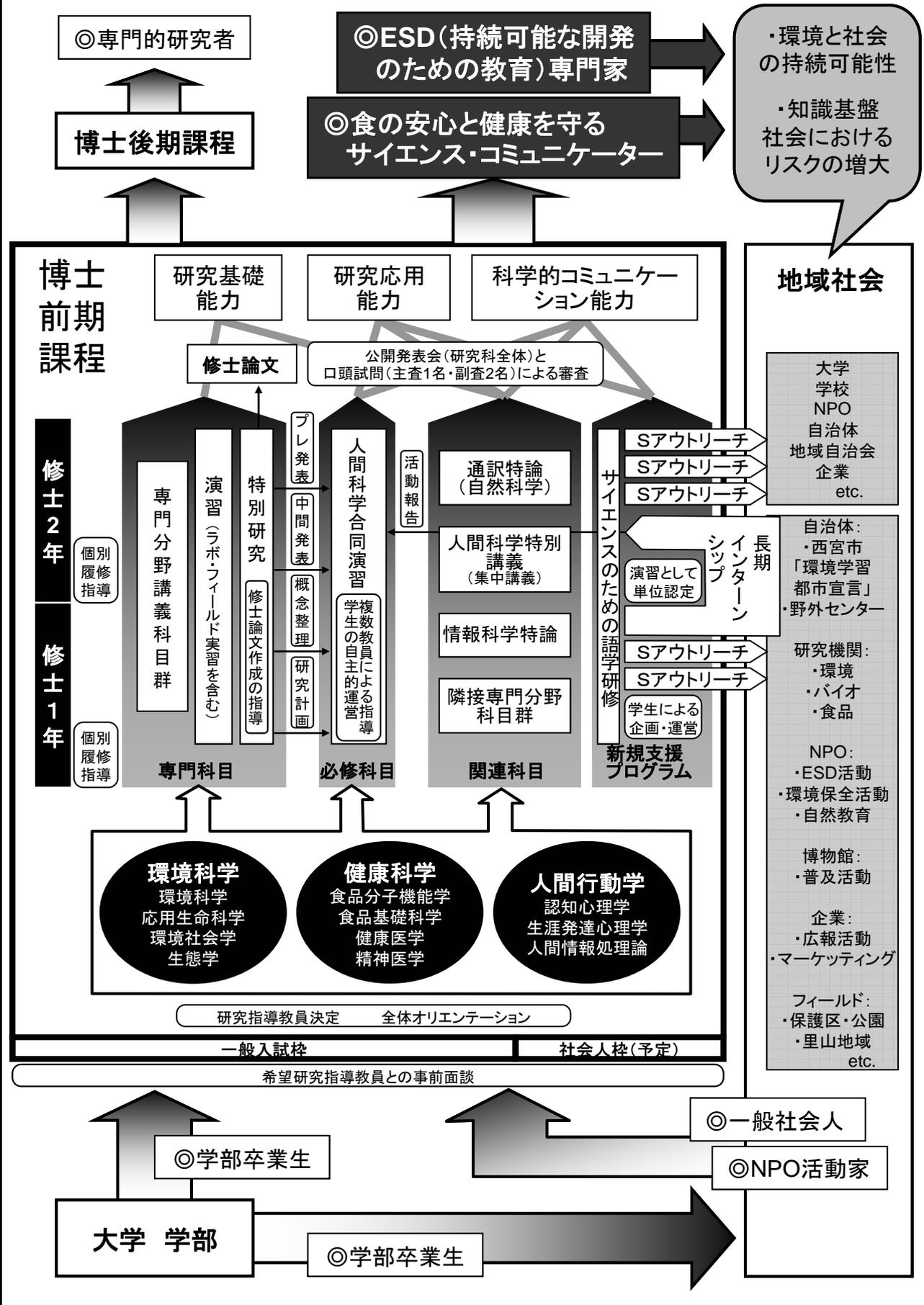
② **教育支援システムとしてのサイエンス・アウトリーチ活動**：アウトリーチ活動では、単に研究者による市民への知識の普及・啓発ではなく、市民と科学者の双方向の対話が重視される（『平成15年度科学技術白書』、文部科学省、2004）。ここでは、学生自身が学内・学外での行事、模擬授業、地域での集会等さまざまな場に出かけることを企画し、研究成果や科学的知見を市民にわかりやすく説明するとともに、対話を通じて社会における科学のあり方を直接に感じとってもらう。学生の主体的な姿勢を育成し、企画・運営能力の向上をはかることも重要である。

③ **サイエンスのための語学研修**：外国人講師による科学英語の研修を継続的に実施し、語学力の向上を図る。これにより、学生の情報発信能力、コミュニケーション能力を涵養し、国際性を備えた人材の育成をはかる。

これらにより、地域社会と科学的営為の接点を大学院教育に取り込み、より実践的な女性科学者の育成に力を入れる事が可能となるとともに、このような地域社会との密接な連携は、本研究科の理念と連動しながら教育研究活動をさらに活性化させる効果をもつと期待される。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科 人間行動学・環境科学・健康科学分野
 「環境と健康のために行動する女性科学者養成」プログラム



・環境と社会の持続可能性
 ・知識基盤社会におけるリスクの増大

地域社会

- 大学
学校
NPO
自治体
地域自治会
企業
etc.
- 自治体:
・西宮市「環境学習都市宣言」
・野外センター
- 研究機関:
・環境
・バイオ
・食品
- NPO:
・ESD活動
・環境保全活動
・自然教育
- 博物館:
・普及活動
- 企業:
・広報活動
・マーケティング
- フィールド:
・保護区・公園
・里山地域
etc.

◎専門的研究者
 博士後期課程

◎ESD(持続可能な開発のための教育)専門家
 ◎食の安心と健康を守るサイエンス・コミュニケーター

博士前期課程

研究基礎能力 研究応用能力 科学的コミュニケーション能力

修士論文
 公開発表会(研究科全体)と口頭試問(主査1名・副査2名)による審査

修士2年
 個別履修指導
 専門分野講義科目群
 演習(ラボ・フィールド実習を含む)
 特別研究
 修士論文作成の指導

修士1年
 個別履修指導
 専門科目 必修科目 関連科目

環境科学
 環境科学
 応用生命科学
 環境社会学
 生態学

健康科学
 食品分子機能学
 食品基礎科学
 健康医学
 精神医学

人間行動学
 認知心理学
 生涯発達心理学
 人間情報処理論

サイエンスのための語学研修
 シップ
 インターン
 長期
 演習として単位認定
 Sアウトリーチ
 Sアウトリーチ
 Sアウトリーチ
 学生による企画・運営
 新規支援プログラム

活動報告

プレ発表
 中間発表
 概念整理
 研究計画

複数教員による指導
 学生の自主的運営

ブレ発表
 中間発表
 概念整理
 研究計画

研究指導教員決定 全体オリエンテーション

一般入試枠 社会人枠(予定)

希望研究指導教員との事前面談

◎学部卒業生
 ◎学部卒業生
 ◎一般社会人
 ◎NPO活動家

大学 学部

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、比較的小規模であるという大学の特性を活かし、教育のプロセス管理、教育方法等のきめ細かい工夫がなされている点は評価できる。

教育プログラムについては、「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）」の専門家の養成を目指した博士前期課程の教育プログラムであり、実践的な応用能力、コミュニケーション能力の育成を目指した長期インターンシップ、企画・運営能力の向上を目指したサイエンス・アウトリーチ活動、国際性を涵養するための語学研修を通じて、環境と食品の科学と地域社会の橋渡しを行うサイエンス・コミュニケーターを育成するものであり、これからの社会に期待される人材養成プログラムとして、成果を挙げることが期待される。環境科学は広範囲なものであり、その学問体系も多岐にわたるため、効果的な学習が難しい場合があるが、ここでは実習を現場に即して問題解決型の人材育成を図り、とくに西宮の環境省ESD地域との連携など効果が期待できる。ただし、教育プログラムの実現性の面では、やや懸念があるため、計画全体の更なる工夫と具体化が必要である。